

# 松本市地域公共交通協議会

(長野県松本市)

歩行者・自転車・公共交通を優先した持続可能なまちづくりの実現に向け、公共交通の利用促進やマイカーの利用抑制などの取組みを総合的に実施。



## (取組みの概要)

### 1. 商業施設、マスコミ、NPO等と連携した利用促進

- 市内路線を網羅した「全線時刻表」の作成と市民への配布
- 親子連れをターゲットにした「バスの乗り方教室」等のイベントの企画・実施
- 市民イベントとタイアップしたラジオ公開放送でのPR
- コミュニティバスの利用に応じて、商業施設で特典サービスを受けられる「特典ポイントカード」の発行

### 2. マイカーの利用抑制(まちづくりとの連携)

- 「交通のまちづくり」の構築に向けた「次世代交通政策検討委員会」の設置
- 人や環境に優しい自転車通行レーンの設置、バスレーン、カーフリーエリア社会実験の実施
- 市中心部での速度抑制社会実験(ゾーン30)の実施
- 「松本市ノーマイカーデー推進市民会議」との連携による「エコ通勤」の推進
- 鉄道駅におけるパーク&ライド駐車場の整備



全線時刻表



公共交通の企画切符を活用したスタンプラリー



特典ポイントカード



自転車通行レーン



カーフリーエリア



速度抑制社会実験(ゾーン30)

## (効果)

- 住民の公共交通利用意識の向上
- 西部地域コミュニティバスの年度別利用者数(人)



# 高山市公共交通活性化協議会

(岐阜県高山市)

既存の民間バス路線を活用しつつ、上限運賃制度の導入や民間バスとコミュニティバスの乗継円滑化を図るとともに、公共交通の利用促進策を委員自ら企画、提案し、実行するシステムの構築を通じて、我が国最大の面積を有する市域において、安心、安全で快適な移動手段を実現。



## (取組みの概要)

### 1. 民間バス路線を活用した公共交通ネットワークを構築し、交通空白地域を解消

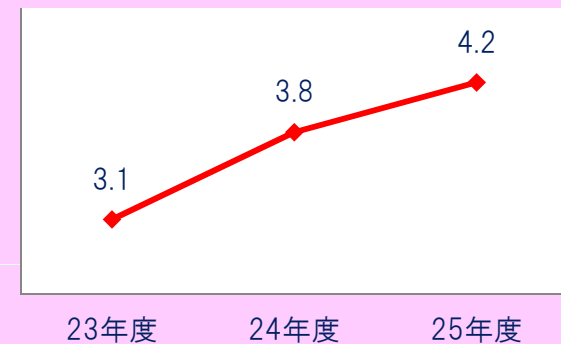
- 市民乗車パスの発行による市内上限1,000円運賃の実現(民間バス)
- 民間バスとコミュニティバスとの乗継ぎ円滑化事業を実施

⇒全市民の95.5%がバス利用可能に



## (効果)

コミュニティバスの1便あたり利用者数(人)



## <関係者の提言による利用促進策>

高山市

- 利用促進イベント「のりものフェスタ」開催
- 4カ国語のバスの乗り方ホームページ作成

商工団体

- 商店街のイベントで、バス乗車券を配布
- バス&ウォークイベントを、商店街で実施

バス会社

- 観光バスガイド乗車
- バス川柳コンテスト実施
- ラッピングバスを運行

警察

- 運転免許証返納事業
- 交通安全教室とバスの乗り方教室実施

### 2. 協議会を活用し、自ら提案できる利用促進システムを構築

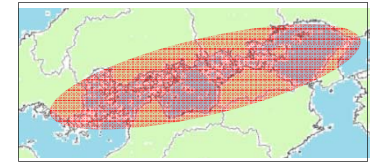
- 協議会において、委員が属する団体が「自らできること」を企画提案
- 商店街や他のイベントとも積極的にタイアップ



# 中国旅客船協会連合会

(広島県広島市)

瀬戸内海地域の特色を活かし、サイクリング観光客向けに乗船料を割引く「せとうちサイクルーズPASS」や割引料金で往復乗船する「広島湾ナイトクルージング」事業などを展開することで、新規需要を開拓しつつ、生活航路を活性化。



## (取組みの概要)

### 1. 「せとうちサイクルーズPASS」の広域展開

- 神戸～四国～中国に至る瀬戸内海エリアに広域展開 (平成26年4月現在 対象航路数 43航路)
- 関係自治体や賛同企業とも各種利用促進策で連携



### <サイクルーズPASS発行実績>



### 2. 既存定期航路を活用したクルーズの実施

- 既存定期航路を活用し割引料金で往復乗船する「広島湾ナイトクルージング」等を展開



ボランティアとして21人が登録

### 3. 「マリンアシスタント」事業の展開

- 広島港ターミナル内観光案内所において、地域住民ボランティアが航路案内や観光案内を実施

## (効果)

サイクルーズPASSによる航路利用者(人)

- ◆ サイクルーズPASSによる航路利用者 (推計値)
- (参考)管内全体の旅客航路利用者



# 高松市総合都市交通計画推進協議会

(香川県高松市)

快適で人にやさしい都市交通の形成に向けて、「高松市総合都市交通計画」の具現化を進めるとともに、25年9月に公布・施行された「高松市公共交通利用促進条例」の制定に貢献したほか、同条例の理念を踏まえ、乗継割引などの各種取組みも実施。



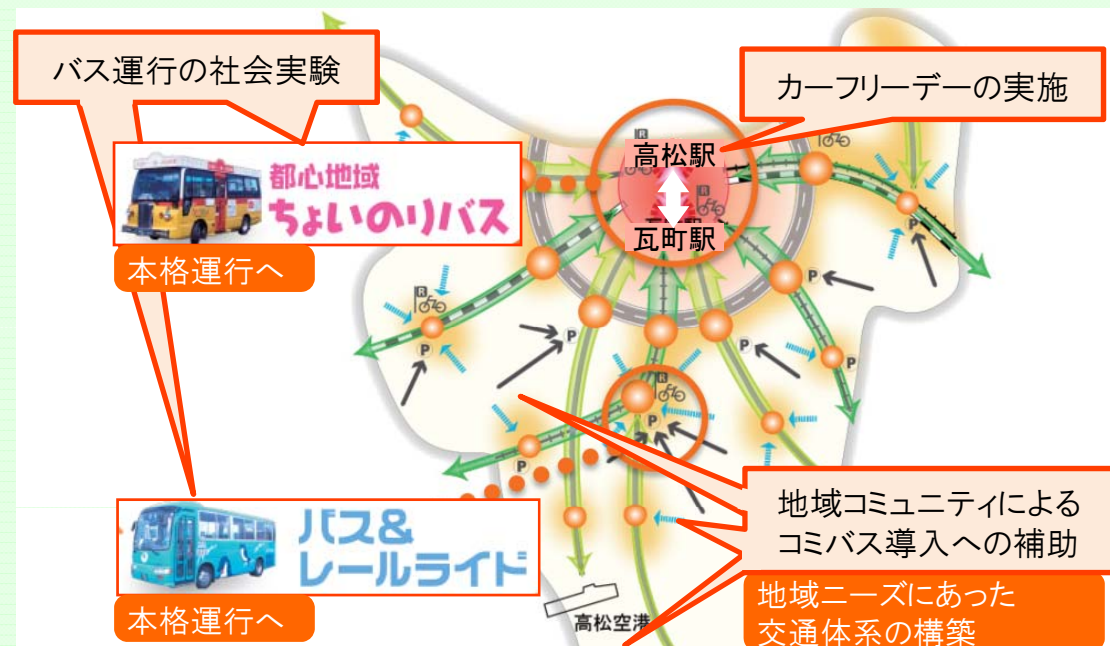
## (取組みの概要)

### 1. 高松市総合都市交通計画に基づく路線再編等の実現

- バス運行の社会実験(まちなか循環バスとバス&レールライドの新ルート開発)を実施し、民間事業での本格運行(H24.4.1～)を実現
- 地域コミュニティ(自治会など地域の各種団体から構成)が主体となって導入するコミュニティバスへの補助
- カーフリーデーの実施や都市交通に関するシンポジウムの開催

### 2. 高松市公共交通利用促進条例への寄与

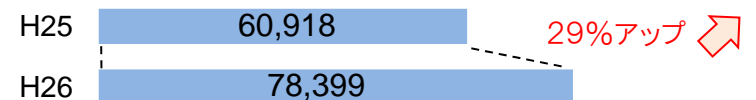
- 「高松市公共交通利用促進条例」の素案をとりまとめ、条例の制定に貢献(H25.9.27公布・施行)
- 条例の理念を踏まえ、様々な施策を展開
  - ICカード「lruCa(イルカ)」を利用した電車とバスの乗継割引の拡大
  - 70歳以上の市民を対象に、運賃が半額となる新たなlruCaを平成26年10月から発行予定



## (効果)

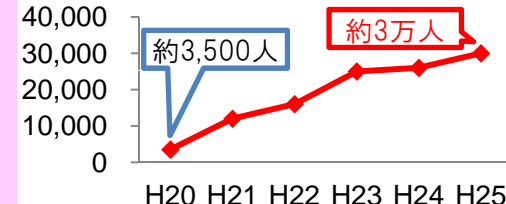
- 地域全体の公共交通の利用者の増加

電車・バス乗継件数(3～5月)



- 公共交通利用に関する意識の向上

カーフリーデー来場者数





# 豊後大野市地域公共交通活性化協議会 (大分県豊後大野市)

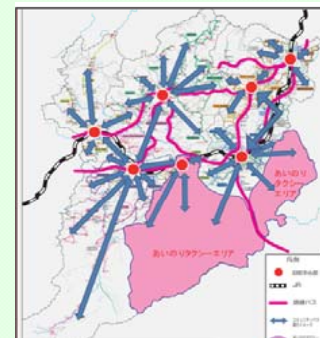
工夫されたバス停を表彰するコンテストの実施など、住民・事業者との協働によるバス利用促進に取り組むとともに、詳細な乗降データを活用し、運行見直し基準を見える化することにより、全国的にも高齢化が進んだ地域において、持続可能な公共交通ネットワークの構築を実現。



## (取組みの概要)

### 1. 地域住民とのきめ細やかなコミュニケーション

- 高齢化(75歳以上の人口割合が全国の市の中で8位※)が非常に進んだ地域において、幹線・枝線の役割分担による公共交通ネットワークを構築  
※ 2010年 国勢調査結果による
- 行政担当者がバス利用者やバス乗務員、集落などへきめ細やかなヒアリングを実施し、把握したニーズをダイヤに反映
- バス利用を市報、CATV等で発信し、お出かけ機会の創出、生きがいづくりに寄与



市内公共交通ネットワーク



市報でのPR

### 2. バス停コンテストの実施

- 特に利用者が多い地区や、地域の事業者による屋根・ベンチなどの自主的な環境整備の取組みに対し、市が表彰をする「バス停コンテスト」を創設



整備されたバス停



コンテスト表彰式



乗降データの一例

### 3. 運行見直し基準の見える化

- 運転士の協力により、コミュニティバス全路線、全便、全バス停の乗降データを収集
- 集計・分析したデータをもとに、運行ダイヤ・ルート of 継続的な見直しを行うとともに、運行見直し基準を見える化

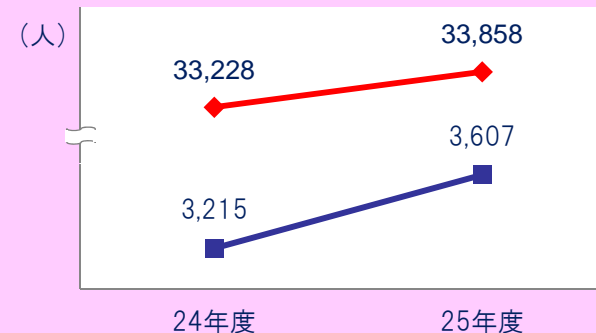
番号	指標	目標設定数値	見直し対応方針
①	路線別の1日あたり平均利用人数(概ね半年集計)	1~2人未満(1日に1~2人利用)の場合、見直しを検討	その路線の廃止を一定の猶予期間を設けて検討・実施
②	便別の1日あたり平均利用人数(概ね半年集計)	0.5人未満(2日に1人利用)の場合、見直しを検討	その便の廃止を一定の猶予期間を設けて検討・実施
③	バス停別の1日あたり利用人数(概ね1年集計)	0.1人未満(10日に1人利用)の場合、見直しを検討	そのバス停の廃止を一定の猶予期間を設けて検討・実施(幹線・枝線踏まえ)

運行見直し基準

## (効果)

- コミュニティバス、乗合タクシーの利用者が増加傾向

● コミュニティバス    ■ 乗合タクシー



- 地区単位で問題意識を持ち、路線を維持するため声を掛け合ってバスを積極的に利用するなど、公共交通に対する住民の意識も向上